

第4次国有林野事業流域管理推進アクションプログラム(宮古・八重山流域)

1 流域の特色(国有林 24千ha、民有林 16千ha)

宮古八重山流域は、沖縄本島から300~400km離れた日本最西端に位置し、宮古列島及び八重山列島の島々からなり、宮古島市、石垣市、多良間村、竹富町、与那国町の5市町村で構成され、総面積は81,827haで県土の約36%を占めている。

本流域の森林面積は39,565haであり、国有林は西表島のみ所に在り面積が24,482haとなっている。

また、西表島はオヒルギ、ヤエヤマヒルギ等のマングローブ林を代表する熱帯植物及びイタジイ、オキナワウラジロガシ等を主体とした亜熱帯植物が生育し、国の特別天然記念物に指定されているイリオモテヤマネコ、カンムリワシが生息するなど、南西諸島の中でも生物多様性が著しく高い森林地帯となっている。

2 流域内で優先的に取り組むべき課題

当流域は県内3流域の中で、近年、最も観光客が増加している地域であり、特に、西表島に入林する観光客や観光業者は増加している状況にある。このため、エコツアーリズムとの関連から各団体とのルールの取り決め等を行い、保全と利用のあり方を検討する必要がある。

また、希少な野生動植物種が生息・生育している地域であることから、研究機関と連携を図り、生物の多様性保全のための共同研究を行い、生息環境保全の取組を推進する必要がある。

さらに、西表島内の小中学校においては、国有林を利用した自然環境教育が盛んに行われており、民有林等と連携した森林環境教育の実施が重要である。

3 国有林野事業に対する流域内のニーズ・要望

当流域においては、西表島に所在する国有林を利用した観光及びエコツアーリズムが盛んに行われていることから、自然と環境を考えた保全と利用のあり方について検討すべきである。

また、教育関係者からは、関係機関・団体及び国有林に対して、地元小中学校が実施している自然環境教育の実施に当たり、植物観察の実施や体験学習など様々な協力要請がなされている。

4 国有林野事業が率先して行う取組

①計画的な木材供給の推進

②森林施業の効率化・共通化等の取組

③林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成

④安全・安心への取組

ア) 目標：民国が連携した治山事業の展開及び普及・啓発

イ) 連携・協力機関：沖縄県、竹富町

ウ) 取組方向：近年、台風の大規模化により西表島においては山地災害が多発傾向にあることから、関係機関と連携を密にした治山事業の展開により、国民生活の安定と向上に資する。
また、署ホームページ掲載等により、木製を利用した工法（木柵工）等のPRを実施する。

⑤生物多様性保全に配慮した取組の推進

ア) 目標：生物多様性保全のための共同研究の展開

イ) 連携・協力機関：琉球大学

ウ) 取組方向：西表島における生物多様性保全のため、研究機関と共同研究により、希少野生動植物（対象種：イリオモテヤマネコ、カンムリワシ）の生息地の把握及び生息環境保全の取組を行う。

⑥上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供、林業体験活動等

ア) 目標：教育関係機関と連携した森林環境教育の推進

イ) 連携・協力機関：沖縄県、各市町村教育委員会、関係するNPO法人、西表森林環境保全ふれあいセンター

ウ) 取組方向：竹富町や石垣市の教育関係機関をはじめとし、森林・林業に関する情報の提供を行い、森林環境教育の実施や、国有林のフィールドを活用した体験学習等に協力するなどの取組を行う。

流域名・流域番号	宮古八重山流域(159)	担当部署	沖縄森林管理署
計画期間	平成22年4月1日～平成25年3月31日		